

各 位

会社名 山陽特殊製鋼株式会社
本社所在地 姫路市飾磨区中島3007番地
代表者名 取締役社長 佐々木 宏機
(コード番号5481 東証・大証第一部)
問合せ先 取締役総務部長 堤 晴兒
(TEL 0792-35-6003)

中期連結経営計画(2005~2007年度)について

山陽特殊製鋼株式会社(社長:佐々木宏機)は、このたび2005~2007年度を実行期間とする中期連結経営計画を策定いたしました。

計画の主な内容は以下のとおりであります。

1. 経営理念

当社グループでは、「信頼の経営」(社会からの信頼、お客様からの信頼、人と人との信頼)を経営理念としております。

高品質の特殊鋼づくりと地域社会との融和を通じて、豊かで文化的な社会の実現に貢献するとともに、鋭敏な感覚でお客様のニーズをとらえて迅速・的確に行動すること、従業員一人ひとりが“創造する喜び”を肌で感じ、働きがいを実感できる企業風土を醸成することが、企業存立の要件であり使命であると認識しております。

2. 中期経営計画策定にあたっての考え方

人・モノ・資金・情報が、国や地域を越えてより自由に、世界的規模で行き来するグローバル化の一層の進展により、世界経済の“同時進行化”はますます顕著になってきております。自由貿易協定(FTA)の締結など、今後も国や地域の相互依存性がこれまで以上のスピードと規模で進むことが予想される中、企業経営の面では、常在する新たな事業機会とリスクを想定した事業体質の一層の強化を図らなければなりません。

鉄鋼業界につきましては、米国や中国を軸とした世界経済の拡大を背景に、足下では業績が回復し経営環境は大きく変化してきました。特殊鋼業界では、世界的な高級鋼不足と日本の特殊鋼の品質優位性から、05年度以降も自動車業界をはじめとする主要需要業界からの需要は、しばらくの間、高位に推移するものと思われまます。一方、原燃料価格の高騰による原料コストの大幅な上昇が鉄鋼業界全体の深刻な問題となっており、企業収益の面では予断を許さぬ状況が続くことが予想されます。

激変する世界経済のうねりと、そこに起因する業界を取り巻く大きな経営環境の変化の中で、当社グループは、特殊鋼メーカーとしてのプレゼンスを一層高めるためには、高品質の特殊鋼を安定的に供給し広く需要業界からの負託に応えていくことを通じて、「企業価値の向上」を図ることが必須であるとの認識に立ち、新たな中期経営計画を策定いたしました。

05~07年度の3カ年を通じて、磐石な事業基盤を構築しROS10%を安定的に確保することにより、「企業価値の向上」を図る考えであります。また同時に、社会を構成する一員として経済性と社会性の両立を図り、企業が果すべき社会的責任を確実に遂行してまいります。

3. 中期3カ年の経営基本方針

企業価値の向上

事業基盤の充実を図り収益力を強化することで、グループ全体の企業価値を高め、需要家、社会および市場からの一層の信頼が得られる企業を目指す。

4. 経営数値目標

安定的に「ROS 10%」を達成する収益構造の確立

(単位：億円、%)

項目	2004年度(実績)	2007年度(計画)	増減額・率	
(売上高)	(1,082)	(1,400)	(318)	(+29.4)
経常利益	55	140	85	+154.5
当期純利益	27	75	48	+177.8
総資産	1,227	1,350	123	+10.0
有利子負債	374	230	144	38.5
ROS(*)	5.1%	10%	+5ポイント	

(*) ROS = 経常利益 ÷ 売上高

収益改善の内訳

ベース経常利益(2004年度実績)	55億円
売上数量増、品種構成の改善	40億円
コストダウン	30億円
連結子会社収益の改善など	15億円
合計	85億円
経常利益目標(2007年度計画)	140億円

キャッシュ・フローの改善

(単位：億円)

項目	2004年度(実績)	2007年度(計画)	05~07年度累計
経常利益	55	140	350
減価償却費	54	60	170
設備投資等	28	70	210
運転資金	70	0	30
法人税、配当金等	7	60	140
フリー・キャッシュ・フロー	4	70	140

売上高および営業利益のセグメント別内訳

(単位：億円、%)

		2004年度(実績)	2007年度(計画)	増減額・率	
鋼材	売上高	936	1,210	274	+29.3
	営業利益	69	140	71	+102.9
素形材	売上高	139	180	41	+29.5
	営業利益	5	5	10	
その他	売上高	7	10	3	+42.9
	営業利益	1	1	0	0.0
計	売上高	1,082	1,400	318	+29.4
	営業利益	65	145	80	+123.1
	(経常利益)	(55)	(140)	(85)	(+154.5)

5. 重点施策

(1) 効率的生産体制の構築

製品の安定供給を通じて、需要家の国際競争力のさらなる強化に貢献するため、生産の上方弾力性(04年度製品生産実績7万t/月 製品生産能力8万t/月)を具備し、効率的な生産体制を構築する。

(2) 高付加価値製品の販売構成比率の向上

高付加価値製品の販売比率を高めるため、設備面の充実を図るとともに、営業・技術・研究開発各部門の連携により営業力を強化する。

(3) 「高信頼性鋼の山陽」のブランド力強化

当社のコア技術である高纯净度鋼製造技術をベースとして、「高信頼性鋼の山陽」のブランド力を強化するとともに、No.1製品のさらなる市場での浸透を図る。

(4) 素形材事業の収益安定化

国内素形材事業の収益力の一層の向上を図るとともに、中国事業における鍛旋一貫加工技術の早期確立により収益改善を図る。

(5) CSR経営の一層の推進

社会を構成する一員として、企業倫理の徹底や地球環境対策の確実な実行など、社会的貢献と社会的責任を果すことにより経済性と社会性の両立を図る。

以上

【参考資料1】当社単体の経営目標など

経営数値目標

(単位：億円、%)

項目	2004年度(実績)	2007年度(計画)	増減額・率	
			増減額	率
(売上高)	(1,024)	(1,300)	(276)	(+27.0)
<売上数量>	<84万t>	<90万t>	<6万t>	+ 7.1
経常利益	56	130	74	+132.1
当期純利益	26	70	44	+169.2
総資産	1,186	1,300	114	+ 9.6
有利子負債	332	200	132	39.8
ROS(*)	5.5%	10%	+4.5ポイント	

(*) ROS = 経常利益 ÷ 売上高

収益改善の内訳

ベース経常利益(2004年度実績)	56億円
売上数量増、品種構成の改善	40億円
コストダウン	30億円
その他	5億円
合計	75億円
経常利益目標(2007年度計画)	130億円

キャッシュ・フローの改善

(単位：億円)

項目	2004年度(実績)	2007年度(計画)	05~07年度累計
経常利益	56	130	320
減価償却費	46	50	140
設備投資等	23	60	180
運転資金	88	10	20
法人税、配当金等	5	60	130
フリー・キャッシュ・フロー	14	70	130

【参考資料2】業績等の推移

業績

連結

(単位：百万円、%)

項目	前中期期間の実績		
	02年度	03年度	04年度
売上高	82,037	87,306	108,189
経常利益	989	1,526	5,523
当期純利益	194	228	2,681
ROS	1.2%	1.7%	5.1%

新中期計画	
(*) 05年度	07年度
127,000	140,000
9,500	14,000
5,300	7,500
7.5%	10%

(*) 平成17年5月10日の公表数値

単体

(単位：百万円、%)

項目	前中期期間の実績		
	02年度	03年度	04年度
売上高	76,572	82,096	102,372
経常利益	1,060	1,523	5,581
当期純利益	33	470	2,587
ROS	1.4%	1.9%	5.5%

新中期計画	
(*) 05年度	07年度
120,000	130,000
8,500	13,000
4,700	7,000
7.1%	10%

(*) 平成17年5月10日の公表数値

設備投資および減価償却費

連結

(単位：百万円、%)

項目	前中期期間の実績			
	02年度	03年度	04年度	累計
設備投資	5,377	4,418	3,642	13,437
減価償却費	6,201	5,679	5,418	17,298

新中期計画	前中期との比較	
05～07年度累計	増減額	増減率
21,000	7,563	+56.3
17,000	298	1.7

単体

(単位：百万円、%)

項目	前中期期間の実績			
	02年度	03年度	04年度	累計
設備投資	1,653	2,352	3,551	7,556
減価償却費	5,194	4,810	4,618	14,622

新中期計画	前中期との比較	
05～07年度累計	増減額	増減率
20,000	12,444	+164.7
14,000	622	4.3

以上